

# 農作物生産情報 (平成29年10月)

## 気象

(平成29年9月25日 仙台管区気象台発表 東北地方3か月予報より)

天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、平年並または低い確率ともに40%です。

## 水稲

稲わらを土づくりなどに活用しよう！

### 1 稲わらの有効利用

わら焼きの煙は、地域住民の健康に悪影響を与えたり、交通の妨げになるなど問題となっている。稲わらは貴重な有機物資源であるので、焼かずに堆肥やすき込み、りんご・野菜の敷きわら、家畜の飼料等に有効に活用する。

#### <すき込みの注意点>

- 稲わらは、すき込む時期が早いほど腐熟が進むので、秋すき込みを基本に、稲刈り後、できるだけ早めに行う。腐熟促進のため、すき込み前に石灰窒素(20kg/10a)や微生物資材等の腐熟促進資材を散布する。プラウ耕が最適であるが、ロータリー耕の場合は粗めに耕起する。
- やむを得ず春にすき込む場合は、秋に腐熟促進資材を散布しておく。

### 2 排水対策

コンバインの走行跡やくぼ地等に滞水するような水田では、翌春の耕起を容易にするため、溝切りを行い排水を良くする。

日本一健康な土づくり運動展開中

稲わらは焼かずに有効活用しましょう！！

# りんご

## 適期収穫で、味がのったおいしいりんごを収穫しよう！

9月21日現在のふじの果実肥大（横径）は、板柳町高増（県生育観測ほ）で8.6cmと平年（8.1cm）を上回っている。

### 1 中・晩生種の着色手入れ

- (1) ふじの除袋は、早めに終える。
- (2) 葉摘みは、始めは果実に密着する葉を摘む程度にとどめ、その後数回に分けて果実に日陰をつくる葉を摘み取る。着色だけを考え早くから強く葉を摘みすぎると、鮮明な色が着かないばかりか、味（糖度）を低下させるので注意する。
- (3) 果実の全面に色が入るように、随時つる回しを行う。
- (4) 支柱の手直しや枝の吊上げなどを随時行い、果実に十分日光が当てる。

### 2 中・晩生種の収穫

- (1) 収穫時期は、着色だけで判断せず、地色の抜け具合や糖度・食味等も併せ判断する。特に、着色系統や反射資材を用いている場合は、食味を必ず確認する。
- (2) 黄色系品種（トキ、シナノゴールド等）は「標準カラーチャート」等を活用し、食味を確認しながらすぐりもぎを行い、適期収穫に努める。
- (3) 収穫後は、速やかに冷蔵施設への搬入や出荷を行う。

### 3 黒星病対策

黒星病の発生が多い園地では、菌密度を下げるため葉摘みした葉をかき集め適正に処分する。

### 4 モモシンクイガ対策（被害果の除去）

モモシンクイガによる被害果を流通させないため、着色手入れや収穫、山選果の際に選別を徹底して行う。

### 5 果実疫病（おそ疫病）対策

- (1) 降雨時の収穫は避け、やむを得ず収穫する場合は、果実に泥を付着させないように次のことに注意する。  
ア りんご箱やかごを直接地面に置かない。  
イ 泥の付いた手袋などをしたままで果実を扱わない。
- (2) 落果や収穫時に落とした果実を収穫果に混入させない。
- (3) 収穫果を長く野積みすると感染の危険が増すので、速やかに貯蔵庫に移す。

### 6 風害防止対策

- (1) 台風などの気象情報に注意するとともに、防風網や支柱などを再度点検し、補強や取替えを行う。
- (2) 幹や主枝などに空洞が生じている場合や、太い枝や若い樹の幹が腐らん病の被害を受けている場合は、支柱で支え、縄などで結束する。
- (3) 幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

## 7 鳥害防止対策

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網（網目35mm以下）を使用する。

### ぶどう

着色、糖度を確認して適期に収穫しよう！

#### 1 スチューベンの収穫

- (1) 十分に着色し、糖度が18度以上になったものから順次収穫する。
- (2) 収穫は、朝夕の果実温度の低い時間に行う。
- (3) 降雨があった直後は完熟果でも糖度が低下し、輸送中の腐敗も多くなるので、なるべく晴天時に収穫する。

#### 2 スチューベンの貯蔵

- (1) 果実の果軸が太く、果房全体が引締まり、果粒に張りのあるものを貯蔵する。
- (2) 病虫害の被害の大きい果実は避ける。また裂果粒、腐敗粒等は取り除く。
- (3) 冷蔵庫への入庫は、収穫後できるだけ速やかに行う。
- (4) 普通冷蔵では温度0℃、湿度95%で約60日の貯蔵が、CA貯蔵では酸素3～7%、二酸化炭素1～3%で約90日の貯蔵が可能である。
- (5) 脱粒はエチレンにより促進されるので、りんごなどのエチレン生成量の多い果実と一緒に貯蔵は避ける。
- (6) 腐敗は灰色かび病菌によるものが多く、これを防ぐため、貯蔵温度を0℃付近に保持するとともに、貯蔵中でも被害果を随時取り除く。

#### 3 施肥（基肥）

収穫後速やかに、下表を目安に施用する。

○成木10アール当たり年間の標準施肥量

区 分	窒 素	リン酸	カ リ	備 考
地力の高い園地 (沖積、火山灰土の深い園地)	10.5～ 12kg	7～8kg	7～8kg	年間標準施肥量 の70～80%
地力の低い園地 (砂れき質の沖積、火山灰土)	9	6	6	年間標準施肥量 の60%
(参考：年間標準施肥量)	(15)	(10)	(10)	

### ◆爆音機による鳥害対策に注意しましょう

住宅地の近くでは爆音機の使用を控え、防鳥網、電子防鳥機、防鳥カイト、防鳥テープ等を設置して鳥害を防ぎましょう。

## 野菜

### ◆アスパラ菜（オータムポエム）◆

老化苗にならないよう、計画的に定植を行おう！

#### 1 定植準備

- (1) トマトなど野菜の後作の場合は無肥料とし、ハウスに新規に作付けする場合、下表を目安に基肥施用する。

(100坪当たり：成分量)

窒素	リン酸	カリ
5 kg	6～7 kg	5 kg

- (2) 栽植様式は、下表を目安に行い、地温確保のためマルチを張る。

(cm、本/100坪)

うね幅	条間	条	株間	栽植本数	備考
180 (通路含む)	35	3	35	1,500	
			30	1,800	9月下旬以降のは種

- (3) 定植数日前に、ほ場に十分かん水しておく。

#### 2 定植

- (1) 育苗日数20日～25日程度、本葉3～4枚頃が定植の適期である。老化苗は生育不良となるため、定植が遅れないようにする。
- (2) 苗は深植えしない。

#### 3 定植後の管理

- (1) 生育初期は徒長しやすいので、本葉5枚頃までは昼夜ともハウスを開放する。
- (2) 定植後茎が立ち、主茎長が5～10cmくらいになったら、大きい葉を5～6枚残して摘心を行う。

### ◆ほうれんそう◆

は種の遅れは収穫の大幅な遅れにつながるので、計画的には種しよう！

#### 1 作型

は種期	収穫期
10月上旬	11月中旬
11月上旬	2月下旬

## 2 定植準備

- (1) トマトなど野菜の後作の場合は無肥料とし、ハウスに新規に作付けする場合は、土壌のECが0.6未満の場合は、下表を目安に基肥施用する。

(100坪当たり：成分量)

窒素	リン酸	カリ
6～7kg	4～5kg	5～6kg

- (2) 栽植様式は、下表を目安に行う。

(cm、本/100坪)

うね幅	条間	条	株間	栽植本数
130(通路含む)	12	8	6	34,000

## 3 は種

は種前にロータリー耕を行い、土の表面が乾かないうちには種する。

※ 表面が乾いているときは、必ずかん水後には種する。

(は種後のかん水は、土が締まり発芽不良となりやすい。)

### ◆こまつな◆

#### 1 作型

は種期	収穫期
10月下旬	12月下旬
11月中旬	2月下旬

#### 2 定植準備

- (1) トマトなど野菜の後作の場合は無肥料とし、ハウスに新規に作付けする場合は、下表を目安に基肥施用する。

(100坪当たり：成分量)

窒素	リン酸	カリ
3～4kg	4～5kg	3～4kg

- (2) 栽植様式は、下表を目安に行う。

(cm、本/100坪)

うね幅	条間	条	株間	栽植本数
30(通路含む)	15	7	5	35,900

※ は種は、ほうれんそうを参照とする

## ストップ！農作業事故

秋の農作業安全運動実施中！ 平成29年8月15日～10月31日

- ・機械操作や高所作業等においては、ヘルメットを着用する。
- ・携帯電話を所持するなど、家族・消防等へすぐに連絡できるようにする。

# 大豆

収穫は、適正水分で行おう！

## 1 収穫前の管理

- (1) 雑草や青立株は、汚粒の原因となるので収穫する前に抜き取る。
- (2) 排水対策として、明きよを施工する。

## 2 収 穫

- (1) 収穫は、完全に落葉し、莢が褐色に変化し、莢内で子実がカラカラ音がする頃が目安である。
- (2) 刈取時の水分
  - ・子実水分20%以下（爪を立てると少し跡が残る程度）
  - ・茎葉水分50%以下（爪でこすっても表皮が剥けない程度、手でポキッと折れる）
- (3) コンバイン収穫時、土かみによる汚損粒が発生しないよう注意する。
- (4) 降雨後は、茎や莢が十分乾燥したことを確認してから作業を行う。

## 3 乾燥・調製

- (1) 子実水分は15%以下に調製する。
- (2) 紫斑病、マメシンクイガの被害粒を除去する。

# 小麦

適正な管理で、越冬前の生育量を確保しよう！

## 1 湿害対策

ほ場の排水対策を徹底し、湿害による枯死株を防ぐ。

## 2 雪腐病防除

- (1) 11月中旬（根雪約4週間前）から根雪直前の期間に防除を行う。
- (2) 作業の容易な時期に、散布後速やかに乾くような条件で防除する。

## 3 麦踏み

- (1) 早播きや高温などにより葉茎が伸びすぎた場合や、凍霜害の恐れがある場合には、トラクタの車輪又はローラー等で踏圧作業を行う。
- (2) 時期は10月下旬～11月中旬、あるいは茎立ち前の3月下旬～4月上旬とする。
- (3) ほ場が多湿条件の場合は、湿害が助長されるので行わない。

## 花 き

ハウスの保温効率を高め、適正温度を確保しよう！

二重被覆などにより保温効率を高め、細かな温度管理で燃料の節約に努め、ハウス内の温度は、循環ファン等を設置して施設内の温度ムラを減らす。

### ◆キ ク◆

#### 1 今後の作業

- (1) 「神馬」の11～12月出荷の作型では、消灯前から温度を少しずつ上げ、消灯時後は夜温15℃以下にならないように管理し、開花を揃える。
- (2) 来年の作付に向けて親株を準備する場合は、病虫害の被害がない健全な株を選び、10月下旬までにハウス内に伏せ込む。
- (3) ヤガ類、アブラムシ類の発生に引き続き注意する。また、白さび病が発生しやすい時期なので、ハウスの換気や薬剤散布等により予防に努める。

### ◆トルコギキョウ◆

#### 1 今後の作業

- (1) 収穫後は速やかに片付けを行い、後作に薬物を作付けするなどして除塩や連作障害対策に努める。
- (2) 越冬作型に向けた育苗は、15℃を目安に管理する。また、計画的に準備を行い、10月下旬頃までに定植する。

### 農薬の適正使用と隣接農地への飛散防止に 十分気をつけましょう

- ・使用した農薬などは、河川等へ絶対捨てないでください。
- ・農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。
- ・農薬は鍵のかかる専用の場所に保管し、管理を徹底しましょう。